

なぜ起る

乳幼児の致命的な事故

監修 反町吉秀 執筆 稲坂 恵 イラスト 久保田修康

A5判 / 2色刷 / 97頁 / 定価(本体1,200円+税) / ISBN978-4-7624-0881-6

私たちが目指すのはどんな社会でしょうか？

子どもたちの未来が明るく開かれている社会であってほしいですね。そのためには、子どもの安全が人権として保障される社会でなければなりません。しかし現状は、多くの子どもたちが事故にあって命を落としたり、後遺症に苦しんでいます。著者の稲坂恵さんは、取り返しのつかない事故の後遺症をもつ子どもに寄り添い、リハビリの支援を続けてきた方です。本書には、そんな目に合う子どもたちを何としても減らしたい、との切なる思いが込められています。(監修者序文より)



子どもの事故は
予防できます！



主要目次

I 東日本大震災 事故予防に活かしましょう

II 暮らしの危険 安全面から考えてみましょう

1. 生活用品の安全設計
2. 安全な環境と法規制
3. 安全なまちづくり(セーフティプロモーション)

III 不慮の事故 まず知りましょう

1. 事故に関するさまざまな要因
2. ハード面とソフト面の予防対策

IV 子どもの発達 事故との関係を学びましょう

1. 子どもの運動発達
2. 子どもの身体特性と起こりやすい事故

V 子どもの事故実態 現実に向き合しましょう

1. 不慮の事故による死亡率
2. 死亡実態(人口動態統計より)
3. 傷害実態(東京消防庁ホームページより)

VI 致命的な事故 過去事例に学びましょう

1. 命にかかわる脳と脊髄(中枢神経)
2. 具体的な事故と予防対策
 - ①歩行中の事故
 - ②自動車同乗中の事故
 - ③自転車同乗者の事故
 - ④高所からの転落事故
 - ⑤投げ出されての転落事故
 - ⑥転倒事故
 - ⑦はさまれ事故
 - ⑧密閉された場所での窒息
 - ⑨口や鼻がふさがれた窒息
 - ⑩首が絞められる窒息
 - ⑪喉に食べ物などが詰まる窒息
 - ⑫誤飲
 - ⑬水の中へ転落するおぼれ
 - ⑭水の中にいるときのおぼれ
 - ⑮火災
 - ⑯やけど
 - ⑰熱中症

VII 最近の子ども事情 大人の責務を考えましょう

1. 「子どもの転び方教室」の時代
2. 生き抜く力をもつ子どもたちへ

2. 子どもの身体特性と起こりやすい事故

乳幼児の身体は3頭身～4頭身で、重心が高い位置にあることが特徴です。また、著しく発達する脳は、大人より多くの酸素を必要としています。これらの身体特性と、乳幼児に起こりやすく、重症化し、ときに致命的となる事故について、図↓にまとめました。



- 皮膚が薄い**
けが・やけどは重症化
- 筋力が弱い**
転ぶ・落ちる・喉に詰まる(窒息)
- 乳児は手足を自由に動かせない**
4か月くらいまで口や鼻をおおうものを払いのけられない(窒息)
- 表面積が小さい**
けが・やけどは広範囲



- 脳の外層(硬膜)の血管が多い**
大きな外力で出血する(硬膜内血腫・硬膜外血腫・網膜出血)
- 脳が必要とする酸素が多い**
すぐ低酸素脳症になる(窒息・溺れ・火災)
- 頭が重い**
頭から落ちる(転落)
縁にからだを付けてのぞき込むと頭からストンと落ちる(転落)
- 頭が大きい(重心が高い)**
バランスが悪く転ぶ(転倒)
- 視野が狭く反応が鈍い**
交通事故ぶつかる
- 呼吸数が多く気道が狭い**
異物が喉に詰まる(窒息)

子どもの身体的特性

⑦ はさまれ事故

- 乳児** 抱っこされた赤ちゃんがドアに指をはさんでしまう事故があります。
- 幼児** ドアの蝶番側や自動車のパワーウィンドウで手指がはさまれると、骨折、粉碎骨折、切断という事態に発展します。



死亡事例
車内にひとりだった子どもがパワーウィンドウを動かし、首がはさまれ窒息しました。

予防対策

- 家の中のドアや引き出しは完全に閉まらないよう工夫する。(蝶番付きのドアなら、牛乳パックでカバー)



- 自動車の中に、子どもをひとりにしない。
- 運転者は、ドアの開閉時には声かけで安全確認をする。
- 自動車のスライド式ドアはしっかり閉める。(不十分だと坂や強い風で閉まり、指などがはさまれる)



根拠

- 子どもは隙間が大好きで、指を突っ込みたがる。ドアの蝶番側では、この作用で最も強い力となり、大げになる。(割り箸で実験して、危険性を確認しましょう)